農林水産大臣賞

『オラッチェとともに』

静岡県裾野市立西小学校　五年四組　男子　山田　太輝

北は富士山。南には海の宝石、桜エビが日本一のするが湾。ぼくの通う学校の給食自まんは、三つある。一つめは、においだ。四月に着任した木下先生は、音楽科の学級担任である。美しい歌声とピアノの演奏にあわせて、どのクラスよりも早く給食のにおいを運んでくれる。食いしんぼうばかりいるぼくのクラスは、おなかの鳴る音とピアノのアンサンブルが始まってしまう。今日の給食は何だろう。大きな声では言えないが、じゅ業中に頭と鼻が集中力を失うことは少なくない。

ふたつめは、地元オラッチェ王国のたんな牛乳が飲めることだ。

「だんなじゃにゃーよ。たんな牛乳だらー。」

と母が静岡弁でじょうだんを言うほどである。百三十年の歴史をもつ、たんなのらく農は、母が子どもの時よりも昔から学校給食を支え続けている。オラッチェ王国は、箱根や伊豆の険しい山々を背中にして囲まれた、小さな盆地である。休日に家族と出かけたことは何度かあるが、とても静かなところだ。ぼくの心ぞうの音と、牛の鳴き声しか聞こえない。豊かな大自然の中で、のびのびと育った乳牛たち。しっかりと濃く、栄養のぎゅっとつまったおいしい牛乳を、ぼくは毎日ぜいたくに飲んでいる。飲んだ後はみんなで牛乳パックを開き、きれいに洗ってかわかす。学校で使うトイレットペーパーや、ティシュペーパーにリサイクルしているのだ。

三つめは、地元で作られた野菜やお肉をたっぷり使っていることだ。好きなメニューはたくさんあるが、一番好きなこんだては、緑色をしたホキのフライだ。衣には、粉末にしたお茶の葉を使っているので、魚のくさみがなくて食べやすい。お茶のさわやかなかおりが、鼻のおくへゆっくり流れていくのが分かる。テストが終わって、ぐったりとつかれた頭の中。運動会の練習で、くたくたになってしまった体。そんな時も、木下先生のピアノやお茶のかおりで、ホッといやされる。まるでのんびりと心をせんたくしたような、不思議な気持ちになっていく。

今年で創立百十年をむかえた、裾野市立西小学校。ぼくの考える学校給食とは、楽しく食べること。食事の大切さを、みんなで学べる最高の場所なんだということだ。夢をかなえるには、食べ物の力が毎日必要になってくる。同じ学年でも、食べきれる量はみんなそれぞれちがうはずだ。給食の歴史や感謝の心を学びながら、オラッチェの大自然とともに大きく成長していきたい。